

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる やや良くなる	商店街（代表者）	・ボーナスが出た企業が多いことから、今後については良くなる。また、旅行に出かける機会も増えることもプラス要因となる。
		商店街（代表者）	・地域の最大イベントが8月に開催されるため、来街者及び販売量の増加が見込まれる。特に、近年は夏のイベント時に、中国や台湾などからの外国人観光客が目立って増加傾向にあるため、駅周辺のホテルやホテル関連業種の業績アップも期待できる。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・観光客の数は少なくなっているものの、報道の影響もあるのか、観光客1人1人の表情が明るくなっている。政治に頼っても仕方がないので、今のうちに遊ぼうという考え方の人が増えている。
		百貨店（売場主任）	・このところ、以前と比べて客の購買意欲が増してきているため、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・客の買い方をみると、単なる安い商品ではなく、多少高くても話題性のある商品や付加価値の高い商品を購入する動きがみられることから、今後についてはやや良くなる。
		百貨店（販売促進担当）	・市内の商況は今月に入り、全体として上向いてきている。気温が予想以上に上昇していることもプラス要因になっている。今後3か月の長期予報でも高温との予想が出ているので、夏物衣料にとっては追い風になる。
		スーパー（企画担当）	・参議院選挙の行方で多少左右されるが、消費税の増税問題を政党がそに乗せるなど、日本の将来をきちんと見据える議論がなされ始めていることから、国民の将来像がやや明確になり、その安心感からマインド的には財布のひもが緩む。
		家電量販店（経営者）	・エコポイント制度に伴う需要が年末まで続くと思込まれるため、今後については良くなるのが期待できる。
		観光型ホテル（経営者）	・まだ問い合わせの段階ではあるが、会議等の団体利用であるMICE需要がうかがえることから、今後の景気の回復が見込まれる。
		観光型ホテル（スタッフ）	・北海道に涼しさを求めて訪れる道外からの観光客が増えていることから、今後についてはやや良くなる。ただし、先日の長期予報で暑い北海道のイメージが出てくることで、北海道を敬遠されることが懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・東京方面への旅行需要の続伸により、前々年並みの水準に回復することが期待される。一方、団体旅行は、前年比80%となっており、復調の兆しが不透明である。
		旅行代理店（従業員）	・先行受注額を前年比でみると、7月は国内旅行が前年比110%、海外旅行が同108%、8月は国内旅行が前年比85%、海外旅行が同104%となっている。国内旅行はやや弱含みだが、海外旅行が好調のため、今後についてはやや良くなる。
		タクシー運転手	・競馬場が改築してリニューアルオープンしたことで、観光客の入込が多くなっている。また、箱館奉行所も7月にオープンする予定であることから、今後、観光客が増えることが期待できる。
		観光名所（職員）	・中国人の観光ビザ要件緩和に加えて、国内の景気向上等により、観光客が増加傾向に向かう。ただし、国内観光客の動きはまだ鈍い。
その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・高速道路の一部無料化により、車両航空が増加する。		
変わらない		商店街（代表者）	・商店街の来街者が一段と減っており、今年に入って閉店する店が増えていることから、今後も厳しいまま変わらない。
		商店街（代表者）	・家計が改善された兆しは見えず、今の状態がトレンドとして続くものの、賢く生活する工夫により、消費者が心理的にゆとりを持ってようになってきた様子がみられる。
		商店街（代表者）	・残暑が続くか続かないかにもよるが、単価の高い秋物商材が売れ始めれば、売上が増えることになるものの、金額の高い買物に対する客の購買意欲がそれほど増すとは思えないため、今の状況が続く。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・最近の売上推移をみると、月単位ではなく、1週間単位や10日単位でベクトルが変わっており、景気が右往左往している状況にあるため、今後も変わらないまま推移する。

	百貨店（売場主任）	・6月に引き続き、7～8月も冷夏と言われていたが、逆に高温が続くという長期予報が出たため、夏物の購買がそこそこの数字として見込める。特にカットソー・ブラウス・パンツ等の動きが顕著となる。8月下旬からは秋物商戦に入るが、この時期の天候によっては更に期待が持てる。
	百貨店（売場主任）	・前年の売上を上回った部門もあるが、婦人服、呉服、宝飾は前年割れの状況が続いている。
	スーパー（店長）	・このまま好天が続き、気温の高い日が続けば、飲料やビールの売上も伸び、夏商戦への期待が持てるが、現在の不景気感を払しょくするまでの状況は見込めない。
	スーパー（企画担当）	・ここにきて気温の上昇がみられ、涼味商材の動きが活発になり、売上も上向きつつあるものの、冷夏予想が出ているため、今夏の商戦は天候に左右される見通しの立ちにくいものとなる。
	スーパー（役員）	・7月以降、前年よりも気温が上がれば、夏物商材の買上点数の増加が期待できるが、8月の気温は平年以下との予測もあることから、現状維持の状況が続く。
	コンビニ（エリア担当）	・6月に真夏並みの暑さが続いたことで、来客数が増加し、売上が増えている。天候要因で一時的なものという見方もあるかもしれないが、消費者の支出に少し安定したものを感じることから、今後も変わらないまま推移する。
	コンビニ（エリア担当）	・今月の動きは天候要因による回復の動きであり、天候次第で変動が見込まれる。高速道路の一部無料化等の効果に期待したいが、依然として客単価の伸び悩みがみられることから、まだ本格的な回復とはならない。
	コンビニ（エリア担当）	・たばこや酒の販売量が増加しておらず、依然として節約志向が強いことから、前年並みの天候では、売上増加は見込めない。
	衣料品専門店（店長）	・3か月後にはもう寒くなり始め、暖房などにお金が必要となるため、消費にあまりお金が回ってこなくなる。
	家電量販店（店員）	・夏の天候によっては、白物家電が動くことが期待できる。
	家電量販店（地区統括部長）	・薄型テレビは、年末のエコポイント制度の終了まで好調に推移するが、パソコンを中心としたOA商品の落ち込みが予想されることから、全体としては、ほぼ横ばいの状況が続く。
	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・本当に必要な商品だけを購入する客の傾向は今後も変わらず、ジグザグに売上が変化する状況が今後も続く。
	旅行代理店（従業員）	・7月の連休や9月の連休でのキャンセル待ちが少なく、夏休みやお盆時期も割引率の大きな航空券に需要が集まっている。
	タクシー運転手	・当市のタクシーは減車で台数が減ってきているが、それよりも利用客の減少幅が大きいいため、今後もタクシー利用が前年を下回って推移する。
	通信会社（社員）	・地上デジタル放送対応テレビの購入が進んでいるなかで、大きなイベントやキャンペーンもないことから、商品の購入意欲が刺激されることはない。
	観光名所（役員）	・海外客、特にアジアからの来客が回復してきている。一方、国内客については上向き兆しがあるものの、参議院選挙などのマイナス材料もあり、先行きの不透明な状況が今後も続く。
	美容室（経営者）	・何か大きな経済刺激策でも発表されない限り、現状の冷えた消費傾向は変わらない。家計の支出がはっきりと固定化されており、不要不急のものに出費しないという雰囲気も顕著にみられる。
	住宅販売会社（従業員）	・多少販売戸数が増加しても、あまり喜べない。依然として販売価格の下落傾向が続いているが、建築コストの低下がそれに追いついておらず、今の傾向が続く限り、企業が存続するために必要な利益を確保することは難しい。
やや悪くなる	スーパー（店長）	・競合店の閉店から1年が経過し、今までのような売上の伸びは期待できなくなるため、今後の動向は不透明である。特に、食品部門は競合店が近くにオープンする予定のため、一層競争が激しくなる。
	乗用車販売店（従業員）	・まだ景気が上向いていない状態のなかで、環境対応車への補助金制度が終わるため、全体的な販売量が少なくなる。
	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・原油価格の高値安定による消費の節約、若い世代の自動車離れ、ハイブリッド車の普及による燃費の向上により、自動車用燃料の販売量の減少傾向が続く。

		高級レストラン（スタッフ）	・景気はこれ以上悪くならないと密かに期待していたが、消費税の増税や北海道開発局の廃止などのニュースが流れたことで、北海道が停滞に陥る危険性がある。	
		高級レストラン（スタッフ）	・今月はボーナス時期であったが、テレビ購入などにお金が回ったことで、今後、ぜいたくなレストラン利用などが控えられる。	
		観光型ホテル（経営者）	・このところの円高により、海外客の減少が懸念される。更に、高速道路の一部無料化や景気低迷の影響などに伴う来客数の減少も懸念されるなど、政治的な外部要因にも大きく左右されている。	
		タクシー運転手	・電話注文や来客数の増える要素が思い当たらないため、今後についてはやや悪くなる。	
	悪くなる	乗用車販売店（営業担当）	・環境対応車への補助金制度が9月に終了するが、商品の供給が間に合わないため、制度終了前の駆け込み需要が見込めない。	
企業 動向 関連	良くなる	-	-	
	やや良くなる	建設業（経営者）	・工事の発注が進み稼働が上がる。ただし、官民ともに量的な落ち込みが大きく、価格面でも過当競争のため、厳しい状況が続く。	
		輸送業（支店長）	・季節要因になるが、例年、夏場は物流量が増えるため、今年も物流量が増えることが期待できる。	
	変わらない	食料品製造業（団体役員）	・口蹄疫の収束感やサッカーワールドカップでの1次リーグ突破などの明るい話題はあるものの、参議院選挙や消費税の増税の議論などが景況感に水を差すことになる。	
		家具製造業（経営者）	・経済環境、政権などに不確定要素が多いため、今後も変わらないまま推移する。	
		出版・印刷・同関連産業（従業員）	・あまり良くなるような状況は考えられないため、今後についても変わらない。	
		金属製品製造業（経営者）	・取引先の動きがまだ見えないため、今後についても変わらないまま推移する。	
		金属製品製造業（役員）	・マンション及び住宅販売に関しては、少しずつ持ち直してきているが、販売価格の低迷や材料の高騰が起きているため、今後についても変わらないまま推移する。	
		輸送業（営業担当）	・高速道路の一部無料化により、輸送業者の集配にどのような影響が出るか判断できない部分もあるが、これまでのようなジャストインタイムは困難になる。	
		金融業（企画担当）	・観光関連は高速道路の一部無料化に加えて、外国人観光客の増加傾向から、持ち直しが見込まれる。住宅業界も住宅版エコポイント制度の効果から、リフォーム需要の好転が見込まれる。一方、公共投資削減の影響から、建設土木業界は大幅な落ち込みが続く。	
		司法書士	・一時的には回復に向かうが、当分は不安定な状況が継続する。	
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・業績の良い業種と悪い業種がはっきり分かれており、全体としてはプラスマイナスゼロでの推移となる。	
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・北海道地場の案件が少ない状況であり、先行きに不安がある。	
		やや悪くなる	食料品製造業（役員）	・4～6月と例年、販売が好調なこの時期に低迷しているため、販売量が落ち込む夏場は更に悪くなる。
			建設業（従業員）	・冬に向かい始めるなかでの更なる新規着工件数の減少に加えて、建設工事の価格低下から、建設関連での景気浮揚は全く望めない。
			通信業（営業担当）	・当社及び取引先で、上期業績について計画値よりも慎重な意見が増えているため、今後の景況感はやや悪くなる。
			その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	・公共事業の発注量の減少が見込まれるため、今後についてはやや悪くなる。
	悪くなる	-	-	
雇用 関連	良くなる	-	-	
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・当初の冷夏予想に反し、高い気温が続いている。このまま冷夏予想が外れれば、季節商材や観光に良い影響を与えることになり、雇用面にもつながることが期待される。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	・天気が思わしくなかった5月の反動からか、好天続きとなった6月は小売業や食品関連業種で求人が大きく増加し始めていることから、7月以降も個人消費関連業種が好転することになる。	

	新聞社 [ 求人広告 ] ( 担当者 )	・ここ数か月のすう勢から、地域の雇用環境が改善されてきているため、今後についてはやや良くなる。また、雇用環境の改善が、全般的な消費拡大に波及することも期待できる。
	学校 [ 大学 ] ( 就職担当 )	・景気回復とも連動する新卒採用の動向ではあるが、徹底して質を重視する方向性が顕著に示されるなか、情報交流の場で買い手市場を有効に活かそうという話題が少なくない。次年度の採用は、現時点で未確定であるが、今後、前年並みの採用数、もしくはわずかでも採用数を増やすという情報が出てくるのが期待できる。
変わらない	人材派遣会社 ( 社員 )	・求人数は横ばいで推移すると見込まれるが、なかなか就職できない求職者は増加傾向で推移しており、失業率が上昇する。行政が様々な雇用対策を行っているが、すぐに成果が出ることは難しく、しばらくは雇用環境の悪化が続く。
	人材派遣会社 ( 社員 )	・増員に伴う雇用の話は、相変わらず増えていない。すぐに雇用が増えるとは思えないため、今後についても変わらない。
	求人情報誌製作会社 ( 編集者 )	・今年3月から求人件数に少しの回復傾向があったものの、今月は求人数の伸びが鈍化しており、一服感が出ていることから、今後も変わらないまま推移する。
	職業安定所 ( 職員 )	・新規求職申込件数が2か月ぶりに前年を上回ったものの、前年を0.8%上回るにとどまったことから、今後についても変わらないまま推移する。
	職業安定所 ( 職員 )	・製造業の求人が減少傾向にあり、求人全体の数字にも伸びがないことから、今後も今の状況が続く。
	職業安定所 ( 職員 )	・引き続き就職件数が前年を3.6%上回っていることから、今後も変わらないまま推移する。
やや悪くなる	職業安定所 ( 職員 )	・世界的な景気刺激策の息切れ、財政再建策の実施、中国のバブル崩壊、欧州の財政危機等が言われ始めていることから、今後についてはやや悪くなる。
悪くなる	-	-